

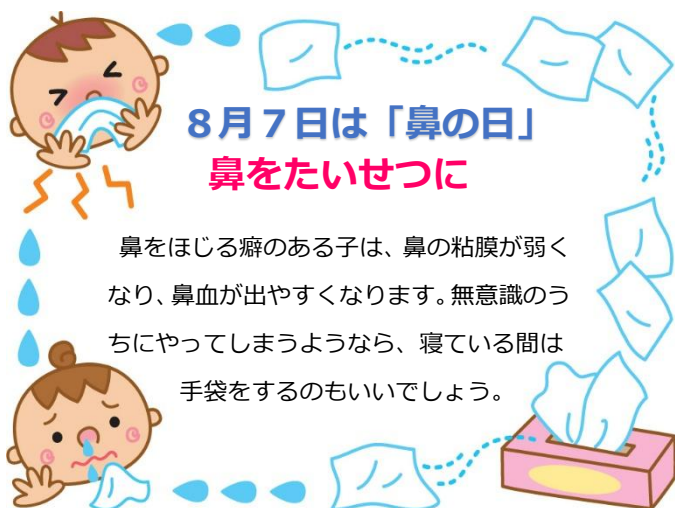


8月のほけんだより

令和8年7月29日

しんあい保育園

猛暑が続いています。暑いと体力が落ちて、食欲がわからないことや、つい冷たい物ばかりを食べてしまうことがあります。暑さに負けない体づくりをするためにも、しっかりとご飯を食べられる工夫をしましょう。



8月7日は「鼻の日」 鼻をたいせつに

鼻をほじる癖のある子は、鼻の粘膜が弱くなり、鼻血が出やすくなります。無意識のうちに行ってしまうようなら、寝ている間は手袋をするのもいいでしょう。

【爪を切って清潔に過ごしましょう！】

プール遊びや水遊びが始まっています。乳幼児のやわらかい肌を傷つけないように、手だけではなく、足の爪も切るようにしてください。深爪に注意しながら、こまめに切るようにしましょう。

日射病 熱射病に 注意

外で強い日ざしにさらされて起こるのが日射病、蒸し暑い所に長時間いて起こるのが熱射病。総称して熱中症といいます。

予防のポイント♪

炎天下であそばない 日ざし強いのは、午前10時ごろ～午後2時ごろ。この時間帯の外あそびは30分ほどで切り上げて。	ベビーカーは短時間で ベビーカーは、アスファルトの照り返して熱がこもりやすい。長時間の移動は避けましょう。
外と家との温度差に注意 涼しい室内から急に気温の高い外に出ると、体力が奪われて危険です。	子どもを一人にしない 子どもを車や部屋に一人で残さないで。クーラーをつけていても危険です。
つばの広い帽子をかぶる 頭だけでなく、後頭部や首も、日光から守りましょう。	こまめな水分補給 少量の水分を30分を目安に、こまめに飲ませます。

とびひの増える季節です

とびひは、夏の疲れが出る8月の終わりから9月ごろに多くなります。虫刺されの跡や傷に、菌が付いて発症することが多いようです。「傷がじゅくじゅくしている」「なかなか傷が治らない」というのがとびひの始まりのサイン。やがてかゆみの強い水ぼうがができます。これをかきこわした手でほかの所をかくと、そこにもとびひが広がります。



主な症状

- 皮膚に小指のつめくらいの水ぼうがができる
- 水ぶくれや、赤くじゅくじゅくした、ただれた状態になる
- 強いかゆみがある

家庭での手当て

- じゅくじゅくした部分はガーゼで覆う。皮膚科で処方された薬があれば塗ってから、ガーゼで覆う
- お風呂では湯船につからず、シャワーで洗い流して清潔を保つ
- 湯上がりはこすらずふき取り、薬を塗る



患部が乾燥すれば、うつる心配はありません。じゅくじゅくしていたら、ガーゼで覆いましょう

